

☆Live Bar雷神Presents : ばぐーす長谷川のロック向上委員会☆

『第3回 : 21世紀発・新しくも回帰なロック特集』

～聴き逃してはいけないサウンドがここに～

実は初めての場所でロック講座を行う際に、先ずテーマに持ってくるのがコレ。2000年以降にデビューしたバンドやアーティストを集め（中には90年代末デビューのバンドもあるが）、往年のロックファンに聴いてもらうのが目的である。

なぜそんなことをするのか？

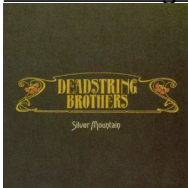
私ばぐーす長谷川、長年FMラジオにてロック番組を担当し、さらには多くのロック講座も行ってきたが、どうしても気になることがある。それは“若い音楽ファンはアルバムとして聴くという意識が薄い”ことと“往年のロックファンは新しいバンドに対して少し冷ややかである”ということ。前者は現代のスタイルを考えるとどうしようもないことだと納得しているが、後者に関しては個人的にどうしても解せない...という理由から、最初にこのテーマを持ってくるのである。

「そんなことはないよ、新しいのも常に聴いているし探しているよ」という人ももちろん居るが、ハッキリ言ってそういう人は少ないというのが現状だと私は認識している。

そこで“ローリング・ストーンズやフェイスズ、レーナード・スキナードあたり好きでしょ？じゃあ、コレも聴いてみてよ”という意味を込めて【21世紀発・新しくも回帰なロック特集】を最初に持ってくるのである。

昔のモノを正当化し、現代のモノを揶揄するのは簡単である。しかし一度で良いから、ロック・ミュージックのムーヴメントが生まれにくくなった21世紀以降のロック・ミュージックをじっくりと聴いてみて欲しい。皆さんにとっての、“聴き逃してはいけないサウンド”がその中にあるかもしれないから。

1: Deadstring Brothers / Heavy Road (Silver Mountain : 2007)



2003年デビュー。70年代のロック・バンドが放っていた特有の毒を現代的に映し出したデトロイト出身バンドの3rd作。G/Voのカート・マーシュキのソロ・プロジェクトとして生まれたせいかアルバム毎にメンバーが違い、2014年には惜しくも解散。ミック・ジャガーとピーター・ウルフのスタイルを踏襲したカートと、もう1人のVo（女性）：マーシヤ・マルジャのコンビが妖艶で秀逸なのだ。

<https://www.youtube.com/watch?v=Gm0AcCOhLX8>

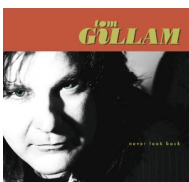
2: Grace Potter & The Nocturnals / Tiny Light (Grace Potter & The Nocturnals : 2010)



現代のボニー・レイトと呼ばれ、2004年にインディーズからデビューを飾ったヴァーモント出身：グレイス・ポッター率いるバンドの3rd作。1stはグレイス名義だったが、その後バンド名義に。前作までのソウルっぽさは薄まっているが、ロックとしての質が格段にアップされた秀逸な作品だ。近年稀に見る強烈なシャウトはジャニス・ジョプリンをも彷彿とさせる。

<https://www.youtube.com/watch?v=Ma9IzcUe2Zg>

3: Tom Gillam / Never Look Back (Never Look Back : 2007)



2000年デビュー。フィラデルフィア出身：Tom Gillamの4th作。レーナーズや38 Special等に通じるサザンロックの感性と、爽快なキャッチーさをブレンドした秀作だ。ソングライティング力はかなりのもので、泥臭さに反応するリスナーとメロディに反応するリスナーの両方を味方に付けることのできる音楽性を持った男である。

<https://www.youtube.com/watch?v=JVegxzaT5Ks>

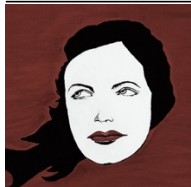
4: North Mississippi Allstars / Rollin'n Tumblin (World Boogie Is Coming : 2013)



2000年デビュー。ルーサーとコディのディッキンソン兄弟からなるNMAの7th作。前作までのロック・サウンドから、この作品では思いっきりハイパーなブルース・アルバムに挑戦。現・アメリカが誇るアメリカン・ミュージック・バンドとして納得のいく仕上がりである。ブルース云々はもちろんの事、ブルース初心者までもが楽しめる数少ないエンター

テイメント性豊かな作品と言えるだろう。<https://www.youtube.com/watch?v=P0JsmXJoNcc&list=PL9vP51w1k175C3Rd64Zkds4J5gQBEotEc&index=3>

5: Moon Safari / Lover's End Pt.1 (Lover's End : 2010)



2005年デビュー。スウェーデン出身：Moon Safariの3rd作。ジャンルがプログレに括られてはいるが、フック満点なコーラス、大曲であってもキャッチーな美メロで構成された楽曲等、広い意味でのメロディックなロック・バンドと言った方が的確だろう。Camel, Queen, そしてJerry Fishの後継者と言えるその音楽性は、ここ日本でも話題になった。今年Newアルバムをリリース予定。

https://www.youtube.com/watch?v=atqVpQO_ByA&list=PLhqqv0WWGUplxOoFtqxMxPYweil4-PDdw&index=1

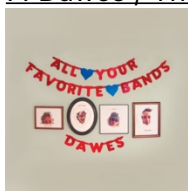
6: Biters / Stone Cold Love (The Future Ain't What It Used To Be : 2017)

↓

2010年デビュー。アトランタ出身：Bitersの2nd作。70's Rock、特にグラム系が好きなリスナーは買いの1枚。パッと曲を聴いた瞬間「T.REXか？」と誰もが感じる程、あの時代を秀逸に網羅した作品。現代的モダンな感覚とソリッドなサウンドで味付けされた、『R&Rの饗宴』といった感じのアルバムとなっている。

※YouTubeにMV無し

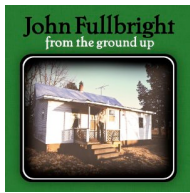
7: Dawes / Things Happen (All Your Favorite Bands : 2015)



2009年デビュー。カリフォルニア出身Dawesの4th作。デビューからこれまで一貫した音楽性を提示してきた彼らが、さらに誠実に音楽と向き合ってきた様子が聴いて取れる質の高い作品。リスナーに寄り添うような優しい彼らのメロディは、地味ではあるがハマると抜けられなくなるだろう。寂しい時、悲しい時、ストレスを感じた時、そっと傍に居てくれる“心の清涼剤”的なアルバム。

<https://www.youtube.com/watch?v=PNpSpMMfQis>

8: John Fullbright / I Only Pray At Night (From The Ground Up : 2012)



オクラホマ出身のSSW：John Fullbrightのデビュー作。本国以外では全くの無名と言っていいだろう。そんな彼のデビュー作は、とても美しく、力強く、新人とは思えない出来映え。時代錯誤でありながらもどこか新しく、先人達の影もしっかりと聴き取れる贅沢な作品である。シンプルなアレンジにより音の輪郭・粒が際立っており、アメリカの雄大さを感じさせてくれる素晴らしい作品だ。

<https://www.youtube.com/watch?v=j0rWRJtWIA4>